

学の研究で第5回会議に勧告せられたものは、(1)亜熱帯反流の調査、(2)赤道海流と日本の黒潮上流部の流量に特に力を入れた調査、(3)黒潮の南方(日本の南東方)流路と伊豆-小笠原海嶺の黒潮に及ぼす影響の調査、(4)西太平洋と南シナ海の沿岸及び島嶼間陸棚水域の調査、(5)20°N以南水域の調査(これまで大かた行動する船の時間不足のため省かれていた)である。

重要な進歩が西太平洋海洋学の理解についてなされ、この理解のあるものは世界中のどこか他の水域でも一般に応用するに足るものであることは明白である。漁業研究の成果もまた重要であるが、まとまるにはさらに時をかけねばならない。CSKの最も重要な面は、でき上つたCSK参加国間の接触、開かれた交流の線、共同努力によつて得られた経験であることをよく示している。

## 8 パシヨウカジキ群形成の海洋条件

出所: Chernyi, E. I.: On Oceanological Conditions responsible for formation of Commercial Agregotes of Sailfish (*Histiophorus Orientalis*) in the Gulf of Tehuantepec (Izvestiya Tikho okeanskogo Nauchno-Isslatovatel Skogo Instituta Rybnogo Khozyaistva i Okeanografii, Vol. 66 p. 11-20, 1967)  
(原文 露語, 英訳 W. L. Klawe)

### 結論

1. Tehuantepec 湾は大へん興味ある海で、パシヨウカジキの有望漁場になると思われる。
2. 海況資料から判断してパシヨウカジキの好適条件が周年同湾に存在するとみてよい。
3. パシヨウカジキ集群形成の好適条件存在の理由は海況および海洋生物条件にあるとみてよい。その条件は同水域の大量の食餌を保証するものである。
4. 同湾中央に見出された湧昇水域の原因は同湾のその部分内の反時計廻り環流の結果でなければならない。そのような環流は卓越局地風 *tehuantepecer* で生じる。
5. 湧昇水域によつて生じた同湾中央の冷水パッチはパシヨウカジキの西方逸散を妨げる。それはまた同湾東部にかれらの集中増加を導き、同時に同漁業の好適条件を生み出す。
6. われわれの資料によると、20°Cの等水温線がパシヨウカジキの深層にもぐりこむことを妨げる自然の障壁になつていとみられる。

(M. Blackburn, G. I. Roden の Gulf of Tehuantepec の海洋学的業績が既報されているのを著者は引用してないが当然参照さるべきことを Klawe が注意している(宇田訳))